



## 2020年2月期 決算短信(日本基準)(非連結)

2020年4月14日

上場会社名 株式会社 柿安本店

上場取引所 東

コード番号 2294 URL <https://www.kakiyasuhonten.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 赤塚 義弘

TEL 0594-23-5500

定時株主総会開催予定日 2020年5月22日

配当支払開始予定日

2020年5月25日

有価証券報告書提出予定日 2020年5月22日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年2月期の業績(2019年3月1日～2020年2月29日)

#### (1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期	43,937	0.9	2,429	3.9	2,512	4.1	1,501	7.9
2019年2月期	44,342	1.4	2,338	6.3	2,412	6.7	1,630	1.3

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2020年2月期	143.44		10.1	12.9	5.5
2019年2月期	155.72		11.6	12.9	5.3

(参考) 持分法投資損益 2020年2月期 百万円 2019年2月期 百万円

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年2月期	20,133	15,333	76.2	1,464.85
2019年2月期	18,948	14,530	76.7	1,388.13

(参考) 自己資本 2020年2月期 15,333百万円 2019年2月期 14,530百万円

#### (3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2020年2月期	2,226	666	686	7,487
2019年2月期	2,167	1,498	659	6,614

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2019年2月期		0.00		65.00	65.00	680	41.7	4.9
2020年2月期		0.00		75.00	75.00	785	52.3	5.3
2021年2月期(予想)		0.00		75.00	75.00			

### 3. 2021年2月期の業績予想(2020年3月1日～2021年2月28日)

2021年2月期の業績予想につきましては、現時点では合理的に算定することが困難なことから未定としております。

なお、業績予想の開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

## 注記事項

### (1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	: 無
以外の会計方針の変更	: 無
会計上の見積りの変更	: 無
修正再表示	: 無

### (2) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年2月期	12,446,700 株	2019年2月期	12,446,700 株
期末自己株式数	2020年2月期	1,978,814 株	2019年2月期	1,978,814 株
期中平均株式数	2020年2月期	10,467,886 株	2019年2月期	10,467,962 株

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

新型コロナウイルス感染症による影響が見込まれることから、現時点では業績予想の算定が困難であります。従いまして、2021年2月期の業績予想は未定とさせていただきます、影響額の算定が可能となった時点で改めて開示いたします。今後の見通しにつきましては、添付資料4ページ「1.経営成績等の概況(4)今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	4
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	4
(4) 今後の見通し	4
(5) 継続企業の前提に関する重要事象等	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 財務諸表及び主な注記	5
(1) 貸借対照表	5
(2) 損益計算書	7
(3) 株主資本等変動計算書	11
(4) キャッシュ・フロー計算書	13
(5) 財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(表示方法の変更)	14
(持分法損益等)	14
(セグメント情報等)	14
(企業結合等関係)	17
(1株当たり情報)	17
(重要な後発事象)	17
(その他)	17

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当事業年度におけるわが国経済は、海外経済の減速や米中の貿易摩擦に警戒感が残るなかで、輸出の落ち込みや設備投資意欲が停滞したことにより、企業収益にも弱さがみられるなど、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

また、新型コロナウイルス感染症の世界各地への感染拡大により、サプライチェーンの寸断等による影響のみならず、世界経済全体の悪化が懸念される中、各国が協調して防疫や経済への対策を行っているものの、渡航制限等による影響がみられるうえに、情勢は時々刻々と変化しており、先行きに対する警戒感はさらなる高まりをみせております。

個人消費は、相次ぐ自然災害による被害や、消費税増税後の反動落ちからの持ち直しが一部にみられたものの未だ停滞懸念は払拭できておらず、日本国内での感染拡大防止策による外出機会の抑制や消費者の生活防衛意識の高まりも加わり、非常に厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社は、企業メッセージ「おいしさ、育む。」の想いのもと、「おいしさを磨く、発想する匠」として、お客様への積極的なご提案を通して購買意欲を刺激するとともに、よりご満足いただける商品やサービスの提供に努めました。

出退店・改装につきましては、駅ビル施設の「ekie広島柿安ダイニング」を出店した他、牛肉の丼料理を提供する「柿安 Meat Express」を中心に計19店を出店するとともに、9店の改装、業態転換1店を含め計22店の退店を行いました。

<出退店の状況>

区 分	出 店	退 店	改 装
精 肉 事 業	—	—	1店
惣 菜 事 業	4店	4店	6店
和 菓 子 事 業	2店	15店	—
レ ス ト ラ ン 事 業	13店	3店	2店
食 品 事 業	—	—	—
合 計	19店	22店	9店

以上の結果、当事業年度の売上高は43,937百万円（前事業年度比0.9%減）、営業利益は2,429百万円（同3.9%増）、経常利益は2,512百万円（同4.1%増）、また当期純利益は1,501百万円（同7.9%減）となり、売上高営業利益率は5.5%となりました。

各セグメントの売上高の状況は次のとおりであります。

セグメントの名称	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	構成比 (%)
精肉事業 (百万円)	15,422	35.1
惣菜事業 (百万円)	13,484	30.7
和菓子事業 (百万円)	7,449	17.0
レストラン事業 (百万円)	5,369	12.2
食品事業 (百万円)	2,211	5.0
その他 (百万円)	—	—
合計 (百万円)	43,937	100.0

(注) セグメント間取引については、相殺消去しております。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

精肉事業につきましては、「小間きれ」をはじめとする基幹商品の改良を重ね、より商品力を高めるとともに、牛一頭分の部位をお値打ちにご提供する企画「一頭セール」等による販売施策に加え、鍋物など、季節に合わせたアイテムをコーナーとして展開する等、提案力の向上にも努めました。

出退店・改装につきましては、「マルイファミリー溝口精肉店」を改装しました。

この結果、当事業の売上高は15,422百万円（前事業年度比0.4%増）、セグメント利益は1,735百万円（同6.9%増）となりました。

(b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、人気商品の『大海老マヨ』、『黒毛和牛 牛めし』を軸とした期間限定の商品を展開した他、店内厨房を活かした揚げたてのコロッケやメンチカツなど、商品力の向上に注力しました。

出退店・改装につきましては、駅ビル立地の「ekie広島柿安ダイニング」他、計4店を出店するとともに、6店を改装、4店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は13,484百万円（前事業年度比2.5%減）、セグメント利益は1,129百万円（同8.6%減）となりました。

(c) 和菓子事業

和菓子事業につきましては、基幹商品である「おはぎ」の改良を重ね、日付限定で通常の2倍のサイズになる『びっくりおはぎ』等の企画商品を展開しました。また、「いちご大福」等、人気の「季節」のフルーツ大福シリーズによる売場の魅力向上と活性化に努めました。

出退店・改装につきましては、2店を出店する一方、15店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は7,449百万円（前事業年度比0.6%減）、セグメント利益は459百万円（同26.8%増）となりました。

(d) レストラン事業

レストラン事業につきましては、ビュッフェ業態の三尺三寸箸では、「B級グルメフェア」をはじめ、北海道と九州のメニュー対決など、期間限定メニューに注力し活性化に努めました。

また、フードコート業態におきましても、継続的にメニューの改良を進めた他、「牛」の旨味を活かした炒飯の新業態「石焼牛肉炒飯 柿安」を出店する等、商品力の向上と新業態の展開に取り組みました。

出退店・改装につきましては、13店を出店するとともに、2店を改装、3店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は5,369百万円（前事業年度比1.6%減）、セグメント損失は122百万円（前事業年度は54百万円のセグメント利益）となりました。

(e) 食品事業

食品事業につきましては、「わりした」等、当社オリジナルのタレを刷新した他、ビーフシチューをはじめとする新商品開発、ならびにコンビニエンスストアのギフトへの商品展開等、販路拡大による売上高の伸長に取り組みました。

この結果、当事業の売上高は2,211百万円（前事業年度比0.6%増）、セグメント利益は359百万円（同8.3%増）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

資産、負債及び純資産の状況

当事業年度末における資産合計は、前事業年度末に比べ1,185百万円増加し、20,133百万円となりました。

流動資産は1,384百万円増加し、11,846百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加873百万円及び売掛金の増加523百万円等であります。固定資産は199百万円減少し、8,286百万円となりました。主な要因は、差入保証金の減少67百万円及び繰延税金資産の減少63百万円等であります。

当事業年度末における負債合計は、前事業年度末に比べ382百万円増加し、4,799百万円となりました。

流動負債は398百万円増加し、4,160百万円となりました。主な要因は、未払消費税等の増加101百万円及び預り金の増加93百万円並びに未払法人税等の増加87百万円等であります。固定負債は16百万円減少し、639百万円となりました。主な要因は、資産除去債務の減少11百万円及び長期未払金の減少4百万円等であります。

当事業年度末における純資産合計は、前事業年度末に比べ803百万円増加し、15,333百万円となりました。主な要因は、当期純利益1,501百万円の計上による増加と剰余金の配当による減少680百万円等であります。

以上の結果、当事業年度末における自己資本比率は76.2%となりました。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、7,487百万円となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は2,226百万円となりました。収入の主な内訳は、税引前当期純利益2,380百万円に対し、非資金損益項目等の調整を加減した営業取引による収入2,934百万円等であり、支出の主な内訳は、法人税等の支払額730百万円等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は666百万円となりました。収入の主な内訳は、定期預金の払戻による収入1,200百万円等であり、支出の主な内訳は、定期預金の預入による支出1,200百万円、有形固定資産の取得による支出538百万円等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は686百万円となりました。支出の主な内訳は、配当金の支払額680百万円等であります。

(4) 今後の見通し

今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症の影響による消費の落ち込みや生産活動の停滞等、世界経済は大きく減速することが懸念されており、当社におきましても売上高の減少が見込まれます。

3月度売上高におきましても百貨店等商業施設の臨時休業や営業時間短縮の影響もあり前事業年度比23.1%減という状況であります。主力事業であり内食の精肉セグメントはほぼ前事業年度並みの売上である一方、中食、外食とその影響は大きくなっております。

現在では先行き不透明な状況ではありますが、当社におきましては、新商品開発による売場の活性化、組織力向上を図るための人材育成を通して、よりご満足いただける店舗づくりに取り組んでまいります。

しかしながら新型コロナウイルス感染症の影響は拡大し、非常事態宣言等の規制期間の延長や対象地域の拡大等も見込まれ、収束時期を見通すことが困難であり、現時点では業績に与える不確定な要素が多く、業績予想を合理的に算出することが困難と判断し、2021年2月期の業績予想については未定とさせていただきます。今後合理的な業績予想の開示が可能となった段階で速やかに公表いたします。

(5) 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、連結財務諸表を作成していないため、国際会計基準に基づく財務諸表を作成するための体制整備の負担等を考慮し、日本基準に基づいて財務諸表を作成しております。

3. 財務諸表及び主な注記

(1) 貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,214	8,087
売掛金	2,567	3,090
商品及び製品	314	277
仕掛品	166	181
原材料及び貯蔵品	171	186
前払費用	6	11
その他	20	11
流動資産合計	10,462	11,846
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3,231	3,212
構築物（純額）	14	11
機械及び装置（純額）	230	205
車両運搬具（純額）	5	3
工具、器具及び備品（純額）	523	499
土地	2,224	2,224
リース資産（純額）	14	12
建設仮勘定	16	12
有形固定資産合計	6,261	6,182
無形固定資産		
借地権	5	5
ソフトウェア	103	162
ソフトウェア仮勘定	124	98
電話加入権	12	12
その他	0	0
無形固定資産合計	247	278
投資その他の資産		
投資有価証券	134	108
長期前払費用	218	209
前払年金費用	69	86
繰延税金資産	524	460
差入保証金	1,019	952
その他	10	8
投資その他の資産合計	1,977	1,825
固定資産合計	8,486	8,286
資産合計	18,948	20,133

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,216	1,239
リース債務	5	4
未払金	368	412
未払法人税等	443	531
未払消費税等	203	305
前受金	8	9
未払費用	1,010	1,096
預り金	61	154
賞与引当金	375	364
役員賞与引当金	36	38
資産除去債務	32	4
流動負債合計	3,762	4,160
固定負債		
リース債務	10	9
長期未払金	63	58
資産除去債務	581	570
その他	—	0
固定負債合計	655	639
負債合計	4,417	4,799
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金		
資本準備金	1,074	1,074
資本剰余金合計	1,074	1,074
利益剰余金		
利益準備金	125	125
その他利益剰余金		
別途積立金	8,800	8,800
繰越利益剰余金	6,814	7,635
利益剰余金合計	15,739	16,560
自己株式	△3,542	△3,542
株主資本合計	14,541	15,362
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△10	△28
評価・換算差額等合計	△10	△28
純資産合計	14,530	15,333
負債純資産合計	18,948	20,133

(2) 損益計算書

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
<b>売上高</b>		
製品売上高	38,650	38,304
商品売上高	279	298
料飲売上高	5,413	5,333
売上高合計	44,342	43,937
<b>売上原価</b>		
製品売上原価		
製品期首たな卸高	329	302
当期製品製造原価	17,375	17,127
合計	17,705	17,429
製品他勘定振替高	164	152
製品期末たな卸高	302	265
製品売上原価	17,237	17,012
商品売上原価		
商品期首たな卸高	6	12
当期商品仕入高	192	198
合計	199	211
商品期末たな卸高	12	12
商品売上原価	186	198
料飲売上原価	4,992	5,104
売上原価合計	22,417	22,315
売上総利益	21,924	21,621
販売費及び一般管理費	19,585	19,192
営業利益	2,338	2,429
<b>営業外収益</b>		
受取利息	0	1
受取配当金	2	3
受取ロイヤリティー	7	9
業務受託料	1	—
工事負担金等受入額	29	26
受取補償金	17	—
受取保険金	—	17
その他	31	31
営業外収益合計	91	89
<b>営業外費用</b>		
支払利息	0	—
損害金	11	—
その他	6	6
営業外費用合計	18	6
経常利益	2,412	2,512

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
特別利益		
固定資産売却益	13	—
抱合せ株式消滅差益	479	—
特別利益合計	492	—
特別損失		
固定資産売却損	6	—
固定資産除却損	65	20
減損損失	428	85
店舗閉鎖損失	35	11
解約違約金	8	14
その他	52	—
特別損失合計	596	131
税引前当期純利益	2,308	2,380
法人税、住民税及び事業税	780	807
法人税等調整額	△102	71
法人税等合計	678	879
当期純利益	1,630	1,501

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)		当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
I 材料費		16,597	94.3	16,511	94.7
II 労務費	※1	442	2.5	419	2.4
III 経費	※2	563	3.2	514	2.9
当期総製造費用		17,603	100.0	17,445	100.0
期首仕掛品たな卸高		207		161	
合計		17,810		17,606	
他勘定振替高	※3	273		303	
期末仕掛品たな卸高		161		176	
当期製品製造原価		17,375		17,127	

(脚注)

前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)																								
<p>※1. 労務費には、賞与引当金繰入額 11百万円が含まれております。</p> <p>※2. 経費のうち主なものは次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>外注加工費</td> <td>100百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>112</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>86</td> </tr> </table> <p>※3. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>料飲原価</td> <td>273百万円</td> </tr> <tr> <td>販売費及び一般管理費</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>273</td> </tr> </table> <p>4. 原価計算の方法は工程別組別実際総合原価計算であります。</p>	外注加工費	100百万円	減価償却費	112	消耗品費	86	料飲原価	273百万円	販売費及び一般管理費	0	合計	273	<p>※1. 労務費には、賞与引当金繰入額 11百万円が含まれております。</p> <p>※2. 経費のうち主なものは次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>外注加工費</td> <td>72百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>88</td> </tr> </table> <p>※3. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>料飲原価</td> <td>303百万円</td> </tr> <tr> <td>販売費及び一般管理費</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>303</td> </tr> </table> <p>4. 原価計算の方法は工程別組別実際総合原価計算であります。</p>	外注加工費	72百万円	減価償却費	105	消耗品費	88	料飲原価	303百万円	販売費及び一般管理費	0	合計	303
外注加工費	100百万円																								
減価償却費	112																								
消耗品費	86																								
料飲原価	273百万円																								
販売費及び一般管理費	0																								
合計	273																								
外注加工費	72百万円																								
減価償却費	105																								
消耗品費	88																								
料飲原価	303百万円																								
販売費及び一般管理費	0																								
合計	303																								

【料飲原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)		当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
I 材料費		1,285	27.1	1,265	26.3
II 労務費	※1	1,881	39.8	1,907	39.6
III 経費	※2	1,564	33.1	1,638	34.1
当期総料飲費用		4,731	100.0	4,810	100.0
期首仕掛品たな卸高		3		4	
他勘定受入高	※3	273		303	
合計		5,008		5,118	
他勘定振替高	※4	10		8	
期末仕掛品たな卸高		4		5	
料飲売上原価		4,992		5,104	

(脚注)

前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)																				
<p>※1. 労務費には、賞与引当金繰入額 46百万円が含まれております。</p> <p>※2. 経費のうち主なものは次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>店舗家賃</td> <td>543百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>136</td> </tr> <tr> <td>水道光熱費</td> <td>256</td> </tr> </table> <p>※3. 他勘定受入高の内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>製造原価</td> <td>273百万円</td> </tr> </table> <p>※4. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>販売費及び一般管理費</td> <td>10百万円</td> </tr> </table>	店舗家賃	543百万円	減価償却費	136	水道光熱費	256	製造原価	273百万円	販売費及び一般管理費	10百万円	<p>※1. 労務費には、賞与引当金繰入額 43百万円が含まれております。</p> <p>※2. 経費のうち主なものは次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>店舗家賃</td> <td>541百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>152</td> </tr> <tr> <td>水道光熱費</td> <td>268</td> </tr> </table> <p>※3. 他勘定受入高の内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>製造原価</td> <td>303百万円</td> </tr> </table> <p>※4. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>販売費及び一般管理費</td> <td>8百万円</td> </tr> </table>	店舗家賃	541百万円	減価償却費	152	水道光熱費	268	製造原価	303百万円	販売費及び一般管理費	8百万円
店舗家賃	543百万円																				
減価償却費	136																				
水道光熱費	256																				
製造原価	273百万円																				
販売費及び一般管理費	10百万円																				
店舗家賃	541百万円																				
減価償却費	152																				
水道光熱費	268																				
製造原価	303百万円																				
販売費及び一般管理費	8百万円																				

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

(単位:百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
				別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	1,269	1,074	125	8,800	5,759	14,685	△3,542	13,486
当期変動額								
剰余金の配当					△575	△575		△575
当期純利益					1,630	1,630		1,630
自己株式の取得							△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計	—	—	—	—	1,054	1,054	△0	1,054
当期末残高	1,269	1,074	125	8,800	6,814	15,739	△3,542	14,541

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	21	21	13,508
当期変動額			
剰余金の配当			△575
当期純利益			1,630
自己株式の取得			△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△32	△32	△32
当期変動額合計	△32	△32	1,021
当期末残高	△10	△10	14,530

当事業年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

（単位：百万円）

	株主資本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金					
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計			
				別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	1,269	1,074	125	8,800	6,814	15,739	△3,542	14,541	
当期変動額									
剰余金の配当					△680	△680		△680	
当期純利益					1,501	1,501		1,501	
自己株式の取得								—	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	—	—	—	—	821	821	—	821	
当期末残高	1,269	1,074	125	8,800	7,635	16,560	△3,542	15,362	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△10	△10	14,530
当期変動額			
剰余金の配当			△680
当期純利益			1,501
自己株式の取得			—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△17	△17	△17
当期変動額合計	△17	△17	803
当期末残高	△28	△28	15,333

(4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	2,308	2,380
減価償却費	656	639
減損損失	428	85
賞与引当金の増減額 (△は減少)	7	△10
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3	2
受取利息及び受取配当金	△3	△4
支払利息	0	—
受取保険金	—	△17
工事負担金等受入額	△29	△26
受取補償金	△17	—
有形固定資産除却損	65	20
有形固定資産売却損益 (△は益)	△6	—
抱合せ株式消滅差損益 (△は益)	△479	—
売上債権の増減額 (△は増加)	294	△522
たな卸資産の増減額 (△は増加)	85	7
仕入債務の増減額 (△は減少)	△176	23
未払金の増減額 (△は減少)	△16	40
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△49	101
その他	71	217
小計	3,135	2,934
利息及び配当金の受取額	3	4
利息の支払額	△0	—
法人税等の支払額	△984	△730
保険金の受取額	—	17
補償金の受取額	13	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,167	2,226
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△1,200	△1,200
定期預金の払戻による収入	1,200	1,200
有形固定資産の取得による支出	△1,310	△538
有形固定資産の売却による収入	50	—
工事負担金等受入による収入	29	26
差入保証金の差入による支出	△138	△62
差入保証金の回収による収入	13	93
その他	△142	△185
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,498	△666
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△75	—
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△574	△680
その他	△9	△6
財務活動によるキャッシュ・フロー	△659	△686
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	9	873
現金及び現金同等物の期首残高	6,121	6,614
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	483	—
現金及び現金同等物の期末残高	6,614	7,487

(5) 財務諸表に関する注記事項  
(継続企業の前提に関する注記)  
該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当事業年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

**【セグメント情報】**

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び経営成績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。当社は、食品の製造販売を行っており、その活動は、外食、中食、家庭内食と多岐に渡り、商品、サービス、業態区分による、事業部制により運営されております。これにより報告セグメントについては、以下の5つとしております。

各部門の主な事業内容

<精肉事業>	精肉類の製造小売事業
<惣菜事業>	惣菜、弁当類等の製造小売事業
<和菓子事業>	和菓子類等の製造小売事業
<レストラン事業>	レストラン店舗の運営
<食品事業>	しぐれ煮の製造・卸及び小売事業

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「重要な会計方針」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益の数値であります。

セグメント間の内部売上高又は振替高は、主に市場価格や製造原価に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前事業年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	財務諸表 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	15,359	13,830	7,496	5,455	2,199	44,342	—	44,342	—	44,342
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,437	17	47	22	1,086	2,612	—	2,612	△2,612	—
計	16,796	13,848	7,544	5,478	3,285	46,954	—	46,954	△2,612	44,342
セグメント利益	1,623	1,235	362	54	331	3,607	—	3,607	△1,268	2,338
セグメント資産	2,575	1,891	2,461	2,105	830	9,865	—	9,865	9,083	18,948
その他の項目										
減価償却費	118	135	139	135	51	579	—	579	36	615
減損損失	—	79	95	252	—	428	—	428	—	428
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	336	251	224	547	34	1,394	—	1,394	11	1,406

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△1,268百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,310百万円及びその他調整額42百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額9,083百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、当社での余資運用資金(現金及び預金)及び管理部門にかかる資産等であります。
- (3) 減価償却費の調整額36百万円は、全社資産にかかる減価償却費であります。
- (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額11百万円は全社資産の増加額であります。

3. セグメント利益は、「財務諸表」の営業利益と調整を行っております。

当事業年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	財務諸表 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	15,422	13,484	7,449	5,369	2,211	43,937	—	43,937	—	43,937
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,873	19	37	14	1,102	3,047	—	3,047	△3,047	—
計	17,296	13,503	7,487	5,384	3,313	46,984	—	46,984	△3,047	43,937
セグメント利益 又は損失(△)	1,735	1,129	459	△122	359	3,561	—	3,561	△1,132	2,429
セグメント資産	2,760	1,915	2,476	2,207	947	10,307	—	10,307	9,826	20,133
その他の項目										
減価償却費	124	134	124	150	41	575	—	575	30	606
減損損失	—	—	4	81	—	85	—	85	—	85
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	110	270	72	335	31	820	—	820	9	830

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,132百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,177百万円及びその他調整額44百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額9,826百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、当社での余資運用資金(現金及び預金)及び管理部門にかかる資産等であります。
- (3) 減価償却費の調整額30百万円は、全社資産にかかる減価償却費であります。
- (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額9百万円は全社資産の増加額であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、「財務諸表」の営業利益と調整を行っております。

(企業結合等関係)  
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
1株当たり純資産額	1,388円13銭	1,464円85銭
1株当たり当期純利益金額	155円72銭	143円44銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	1,630	1,501
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	1,630	1,501
普通株式の期中平均株式数(千株)	10,467	10,467

(重要な後発事象)  
該当事項はありません。

(その他)

役員の変動(2020年5月22日付)

1. 新任取締役候補  
取締役 木立 真直  
取締役 大上 有衣子
2. 退任予定取締役  
取締役 中本 攻
3. 退任予定監査役  
監査役 百瀬 雅教